

国語 第5学年 伝記を読み、自分の生き方について考えよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「やなせたかし——アンパンマンの勇気（第5学年）」の単元の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。第5学年でこれまでに読んだ物語や伝記と、「人物像」「描写を基に捉える」「自分の考えをまとめる」をどこまで学習してきたか。学校図書館に伝記がどのくらいあるか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、発言が偏る、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言と、評価規準の文末は変えない。

教科書の本文や台詞、作例の文は引用しない。教材名と人物の呼び方だけを使い、本文を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

人物の生き方を手本として見習わせる書き方にはしない。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喻や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名「伝記を読み、自分の生き方について考えよう」 教材名「やなせたかし——アンパンマンの勇気（梯久美子）」

2 単元の目標

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く（(3)オ）。登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる（C(1)イ・オ）。伝記を読んで、人物の生き方と自分の生き方とを比べて考えたことを、進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（(3)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ）

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（C(1)オ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、伝記に書かれた出来事と人物の考え方を結び付け、学習の見通しをもって、自分の生き方について考えたことを伝え合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本教材は、漫画家・絵本作家のやなせたかしの生涯を、いくつかの出来事を中心に描いた伝記である。出来事ごとに、人物が何をし、何を考えたかが書かれ、それが後の仕事や作品にどう結び付いていったかを追えるよ

うに書かれている。学習指導要領第5学年及び第6学年のC(1)オの、読んだ内容を基に自分の考えをまとめる学習と、C(2)イ「詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動」に合う教材である。子どもの多くが知っている作品の作者なので、作品の裏にある人物の考え方に目を向けやすい。伝記は書き手が事実を選んで書いた文章なので、事実と書き手の見方を区別して読む学習にもなる。並行して読む伝記を学校図書館で選ばせると、(3)オの「読書が、自分の考えを広げること」に役立つ」ことにも気付かせられる。第4学年までに学んだ、登場人物の気持ちの変化を場面と結び付けて読む学習を、実在の人物の生き方を出来事と結び付けて読む学習に広げる位置にある。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、出来事を覚えることを目的にせず、出来事と人物の考え方を結び付けて人物像をまとめさせる。そのために、単元の初めに「人生の年表」を作り、最後まで掲示する(C(1)イ)。次に、人物の生き方を手本としてまとめさせるのではなく、自分の経験と比べて、共感する所も、自分とは違うと考える所も認める(C(1)オ)。道徳の授業にはしない(第3の1(10))。そして、並行して読む伝記を単元の初めに選ばせ、教材で身に付けた読み方を自分の本でも使わせる((3)オ、第3の1(6))。本時のワークシートは、人物像・根拠の描写と出来事・自分の考えの三つがそろっている物を「おおむね満足できる」状況、二つ以上の出来事の描写を結び付けて人物像を説明し、自分の経験と比べた考えを書いている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画(全5時間)

第1次 第1時：○やなせたかしやアンパンマンについて知っていることを出し合い、範読を聞いて初発の感想を書く。○学習課題「伝記を読み、人物の生き方について考えたことを、自分の生き方と比べて伝え合おう」と学習の計画を確かめる。○学校図書館の伝記から、並行して読む本を選ぶ。評価：態①(初発の感想・観察)

第2次 第2時：○伝記に書かれた出来事を年代の順に「人生の年表」に書き出し、それぞれの出来事で「たかし」がしたことと考えたことを確かめる。○伝記には、事実と、書き手の見方が書かれていることを確かめる。評価：思①(年表)

第2次 第3時(本時)：○「たかし」の考え方が表れた描写を出来事と結び付けて人物像をまとめ、その生き方について自分の考えを書く。評価：思②(ワークシート)

第2次 第4時：○並行して読んだ伝記の人物について、出来事と考え方を結び付け、自分の生き方と比べて考えたことを文章に書く。評価：思②(文章)

第3次 第5時：○書いた文章をグループで読み合い、感想を伝え合う。○伝記を読んで自分の考えがどう広がったかを振り返る。評価：知①(振り返り) 態①(振り返り・観察)

6 本時の指導(3/5)

(1) 本時の目標

「たかし」の行動や考え方が表れた描写を、出来事と結び付けて人物像をまとめ、その生き方について、自分の経験と比べながら自分の考えをまとめることができる。(C(1)オ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前の時間の「人生の年表」で、出来事と、その時に「たかし」がしたこと・考えたことを確かめる。

2 本時の問いをつかむ。

○「出来事が変わっても、『たかし』の中で変わらなかった考え方はあるでしょうか」

【めあて】出来事と考え方を結び付けて「たかし」の人物像をまとめ、その生き方について自分の考えを書こう。

予想される児童の反応：・つらいことがあっても、絵をかくことをやめなかった。

・戦争での体験が、後の考え方に結び付いている。

・困っている人を助けることを、ずっと大事にしている。

指導上の留意点：・年表を黒板の右側に貼り、出来事ごとの「したこと・考えたこと」の欄を示しながら確かめる。

・本時は、出来事を覚えることではなく、出来事と考え方を結び付けることがめあてだと伝える。

【展開】

学習活動：3 一人で読み返し、「たかし」の考え方が表れている描写に線を引く。

○「『たかし』の考え方が表れているのは、どの描写ですか」

- 4 線を引いた描写を年表の出来事と結び付け、変わらなかった考え方を短い言葉にまとめる。
- 「その考え方は、どの出来事から生まれ、後のどの出来事に表れていますか」
- 5 グループで、まとめた人物像と根拠の描写を説明し合う。全体で発表し、人物像を黒板に書き足す。
- 6 「たかし」の生き方について、自分の経験と比べて考えを書く。
- 「『たかし』の生き方と比べて、あなたはどうか考えますか」
- (型)「『たかし』は、…という出来事から…と考えるようになり、…の時もその考えを変えなかった。わたしは…」
- 予想される児童の反応：・戦争の体験から、本当に人を助けるとはどういうことかを考えるようになった。
- ・うまくいかない時期があっても、自分が大事だと思うことをかき続けた。
 - ・「たかし」は、あきらめずに続ける人だと思う。
 - ・自分の弱さも知っていて、それでも人を助けようとする人だと思う。
-
- ・わたしは、うまくいかないとすぐやめてしまうけれど、「たかし」のように続けてみたい。
 - ・人の役に立つことは、大きなことでなくてもいいと思った。
 - ・自分とはちがうと思った所もある。
- 指導上の留意点：・本文の描写や台詞は、使う教科書から先生がワークシートと短冊に書き入れる（ここには載せない）。
- ・線を引けない子には、年表の出来事を選ばせ、「この時、『たかし』は何を考えたか」が書かれた所と一緒に探す。
 - ・人物像を「すごい人」「やさしい人」の一語で終える子には、「どの出来事と、どの描写から」と返す。
 - ・伝記は、書き手が事実を選んで書いていることに触れ、書き手が人物をどう見ているかが表れた所にも目を向けさせる。
 - ・自分の考えは、「まねしたい」だけでなく、「自分とはちがう」と考えた所も、根拠があればよしとする。
 - ・早く書けた子には、並行して読んでいる伝記の人物と比べさせる。
- 【まとめ】
- 学習活動：7 書いた考えを二、三人が読み上げ、考えの違いを確かめる。
- 8 振り返りを書く。
- 指導上の留意点：・振り返りは「描写を結び付けて考えた人物像」と「伝記を読んで自分の考えが変わったこと・広がったこと」の二つで書かせる。
- ・次の時間は、並行して読んだ伝記で同じように考えを書くことを伝える。
 - ・人物の生き方を手本として押し付ける話し方にしない。
- 評価：思② 出来事と描写を基に人物像をまとめ、その生き方について自分の考えをまとめている。(ワークシート)
- (3) 板書計画(縦書き・右から左へ)
- 縦書きで右から左へ。右端に日付・題名・めあて。その左に「人生の年表」(出来事を年代の順に右から左へ並べ、下の段に「したこと・考えたこと」)を貼る。中央に、子どもが線を引いた描写の短冊(先生が教科書から書き写した物)を年表の出来事と矢印で結び、その下に「変わらなかった考え方」をまとめた言葉を書く。その左に、グループで出た人物像の言葉を根拠の出来事と一緒に並べる。左端に、自分の考えを書く時の文の型と振り返りの観点二つ。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

